生野高校
77期 1年

学年通信 悉しつう有

第18号（2023年 1月26日）

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂１－552
072-332-0531(学校代表)
072-332-**0711**(学年直通)

【学年通信は保護者の方にも見せてください】

◆韓国泳薫(ヨンフン)高校交流会

１/18(水)の午後は韓国泳薫高校との交流会でした。有志で始まった昨年 11 月のオンライン交流ののち、12 月末には生野から泳薫高校を訪問。そして今回は泳薫高校から生野への来校でした。昼休みの食堂利用から４限の授業案内、５限の交流会、部活動体験をはさんで放課後のお別れ会と、バディの皆さんは大活躍でしたね。当日の詳しい様子は学校の校長ブログに載っています。

生野高校 ＞ ブログ一覧 ＞ 校長ブログ
「今日は韓国泳薫高校の皆様が生野高校を訪問されました！」（2023/01/18 更新）

５限の交流会は、各クラスに４～５人の泳薫高校生を招いて、様々な活動がなされていました。ジェスチャーゲーム、ビンゴゲーム、フルーツバスケット、質問・お話し交流会、絵しりとり（もちろん英語です）、はぁって言うゲーム（詳しくは９組の人に訊いてください）等々…。「どうする？何をしたらいい？」と言いながら、当日の取り組みを考えたり、「どうする？何て伝えたらいい？」と思いながら、交流したのでしょう。その「どうする？」の根柢には、「どうやったら楽しんでもらえるものになるかな？」という思いが（意識していた・していなかったにかかわらず）あったはずです。もちろん、うまいこと考えたな！という交流もありましたが、よく練られたものでなかったとしても、「せっかくなら楽しんでもらいたい」という言外のメッセージはよく伝わってきましたし、そうした迎える側の姿勢に触れると、受け入れられた側も嬉しくなるものです。何より、両者とも同世代の高校生です。同じポイントで悩み、同じポイントで笑った瞬間、通じた歓びを実感できたのではないでしょうか。

異なる国、異なる環境で暮らしている訳ですから、考え方や感覚が異なる部分は当然あります（もちろん通じ合う部分もあります）。自分と異なる点・同じ点を確認しあうことは、他者理解であるとともに、自らを客観化してとらえる自己理解の機会でもあります。

一連の交流が、みなさんの今後にどのような考えの変化、化学反応をもたらすのかを楽しみにしています。

◆SSH・探究Ⅱ成果発表会に向けて

２/２(木)の午後に開催の、主に探究Ⅱスタンダードの口頭発表です。探究Ⅱゼミの展示発表や、科学系部活動、１年生を含んだ発表もあります。みなさんのほとんどはオーディエンスとしての参加ですが、２つの大きな役割があります。１つめは、しっかり聴いて、うなずいて、反応して、場の空気を作ってあげること。良き発表は、良き聴衆なくしては成立しません。２つめは、的確な質問をしてあげること。良き質問は発表者への敬意の現れです。“行って・聞くだけ”の消費者的な立ち位置ではなく、“発表会を構成する一員”であることを意識してください。

ところで、“質問ってどうすれば…？”と感じているのではないかと思い、その具体的なイメージがつかめるよう、授業でワークを実施しています。歴総日本史の１コマを使った、探究Ⅰ特別編「大阪サイエンスデイ発表動画をみよう」です。成果発表会前日までに、全クラスで順次実施していきます。授業では、「質問力を発揮できる人は、自分の探究もいいものにできる人」と説明しています。それは何故か――既に授業があったクラスの人は、もう分かっているはずです(分からない人は、周囲に訊いてください)。授業がこれからのクラスの人は、しっかり理解して、自分のなかに取り込んでください。

◆共通テストに想ふ

1/14(土)・15(日)に2023年度入試の共通テストが実施されました。みなさんは翌日16(月)が進研模試でしたが、共通テストの問題に、簡単にでも目を通しましたか？問題・解答は各新聞社や予備校のWebページから閲覧できますが、全体像をざっくりと把握するには、新聞紙面で眺めるのが通覧性に優れていて一番です。保護者が新聞を購読している場合は見せてもらうといいでしょうし、そうでない場合ならば、生野高校の新聞コーナーに共テ掲載紙を抜き出して置いてあります（読売・朝日・日経）。

77期生が共通テストを受験するのは2025年1/18(土)・19(日)です。今すぐ解けなかったとしても、どのような問題に相対せねばならないのか、そのイメージを今からつかんでおいてほしいのです。どのような特徴なのかを知らず、漠然と勉強するのは難しい。“ゆくゆくは、これを解いていくんだ”というイメージが描けていれば、自ずと勉強への取り組み方や効果も異なってきます。

私（高崎）は日本史担当ですので、ここでは日本史Ｂの問題について述べます（77期の日本史選択者は、歴史総合＋日本史探究の形で受験します）。みなさん、社会の問題でリード文を読んでいますか？下線部や空欄の前後だけを読んで、設問にのぞんではいませんか？従来型の問題であれば、多くはその解き方でも対応できますが、2023年共テ日本史Ｂでは、そうはいきませんでした。６つの大問のうち３つで、大問の最後の問題が、その大問全体を総括する内容になっており、リード文を読まずに設問にのぞんでいれば、改めて冒頭から読み直さねばならない流れになっていました。例えば第２問の問５では「文章Ａ・Ｂや史料１・２をふまえて」と書かれています。ちなみに、大問の最後が総括の問題になっている形は、既に2017・2018年のプレテスト（試行調査）で示されていたもので、これが本格的に実施されるようになったのでしょう。当然、大問の最後に冒頭からリード文を改めて読み直していては時間が足らず、そうなると、他の問題に充分に時間をかけて解くことが出来なくなります。

地歴・公民の定期考査の問題で、全リード文を精読することを当面は要求しませんが、こうした傾向をつかんでいれば、少なくとも自分で問題演習に取り組む際には、リード文の全文を読んで解くことをやっておこう――と、取り組み方が変わってきます。“イメージが描けていれば、自ずと勉強への取り組み方や効果も異なる”と先に述べたことが、これに当たります。

ちなみに、下線部付近だけをつまみ読みして、リード文を冒頭から目を通さずに設問にのぞむと、大問の途中で結局はリード文を読み直し、文章と設問とを往復し続けて時間を費やしてしまうという流れは、英語リーディングにおいても現れていたとのことです。センター試験から共通テストに移行して、「情報処理能力が求められる」「以前よりも読解力が必要」と、ほとんどの媒体で述べられているのは、これらの点を反映してのことでしょう。

こうした話の内容についても、実際に問題に目を通した人とそうでない人とでは、理解度に差が生じます。まだ何も見ていないという人は、すぐに学校の新聞コーナー（渡廊下２階）へ行きましょう！２階へ降りて、新聞をめくるだけです。例外なく誰にでも、すぐに着手できることです。

“スタートが早い”を心がける。すぐに始める。始められる部分から、どんどん始めていくこと――その大切さについては、号を改めて紹介します。

◆当面の予定

2/2(木)午後　SSH・探究Ⅱ成果発表会
4(土) GLHS合同発表会（希望者・大阪大）
6(月) 後期期末考査２週間前突入
7(火) 医・歯・薬・獣医学部志望者説明会（希望者・放課後）
12(日) 駿台全国模試（希望者・校内実施）
13(月) 教室開放期間（～2/24金の平日）